

2015.9.3

第26回 廃棄物資源循環学会 研究発表会 於:九大伊都キャンパス  
企画セッション G9 若手の会

若手の会セミナー  
「廃棄物業界の若手の連携ワークショップ」  
開催報告

～若手はどんな問題意識を持っているか？～

若手の会事務局

1. セミナー開催概要
2. グループワーク概要  
趣旨・方法  
参加者専門性
3. 若手の問題意識・興味の類型結果
4. グループ発表結果
5. 参加者からの意見（アンケート結果）

事務局が新体制(H25～)

若手の会を盛り上げるどんな活動をすれば良いか？  
第一回セミナー(東京)、民間企業の方との意見交換

セミナー(若手の会)の目的

- 同じ(廃棄物?)業界にいるのに、普段はお付き合いのない若手とのつながりを作ること
- 同世代から良い刺激を受けること
- 若手から学会に対して新たな活動を提案

# 1. 1セミナー概要

## 開催日時

2015年6月27日(土) 13:00～17:00

## 場所

東京(ハロー貸会議室八重洲フィナンシャルビル2階A室)

## 実施内容:

学会についての紹介

事業や研究の紹介(話題提供)

グループワーク(約55分)

## 参加者数:

**18名**

**(+若手の会事務局6名)**



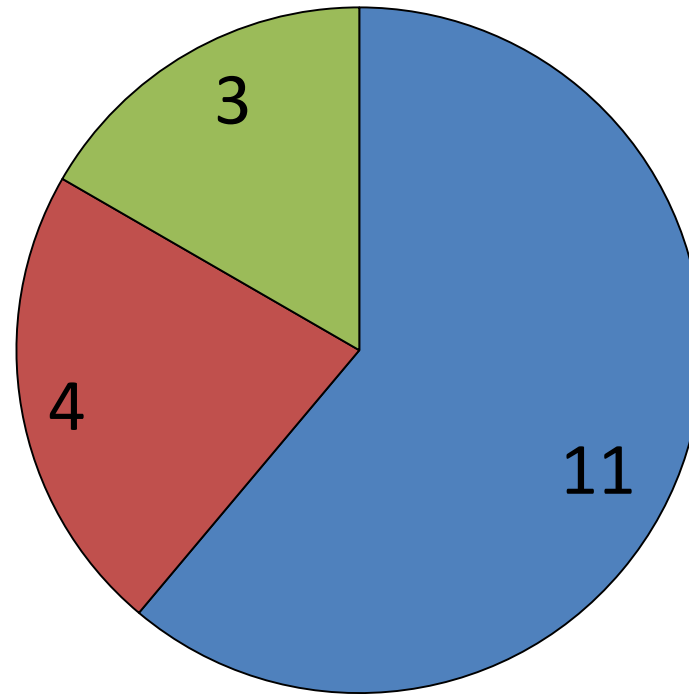
## 1. 2 参加者所属

学術: 17%

- 大学

行政など: 22%

- 自治体
- 公益財団



※事務局除く

民間企業: 61%

- 収集運搬・中間処理
- リサイクル
- 廃棄物コンサルティング

# 1. 3セミナーの様子(学会紹介・話題提供)



- 資源循環・廃棄物処理の問題/関心にもとづいて、若手メンバーの専門性をマッピング
- 1. 若手の**関心・問題意識**の整理と共有
- 2. 若手の**専門性**の整理と共有
- 3. 議論の発表
- 「正解」の導出ではなく、**議論と発見が趣旨**！

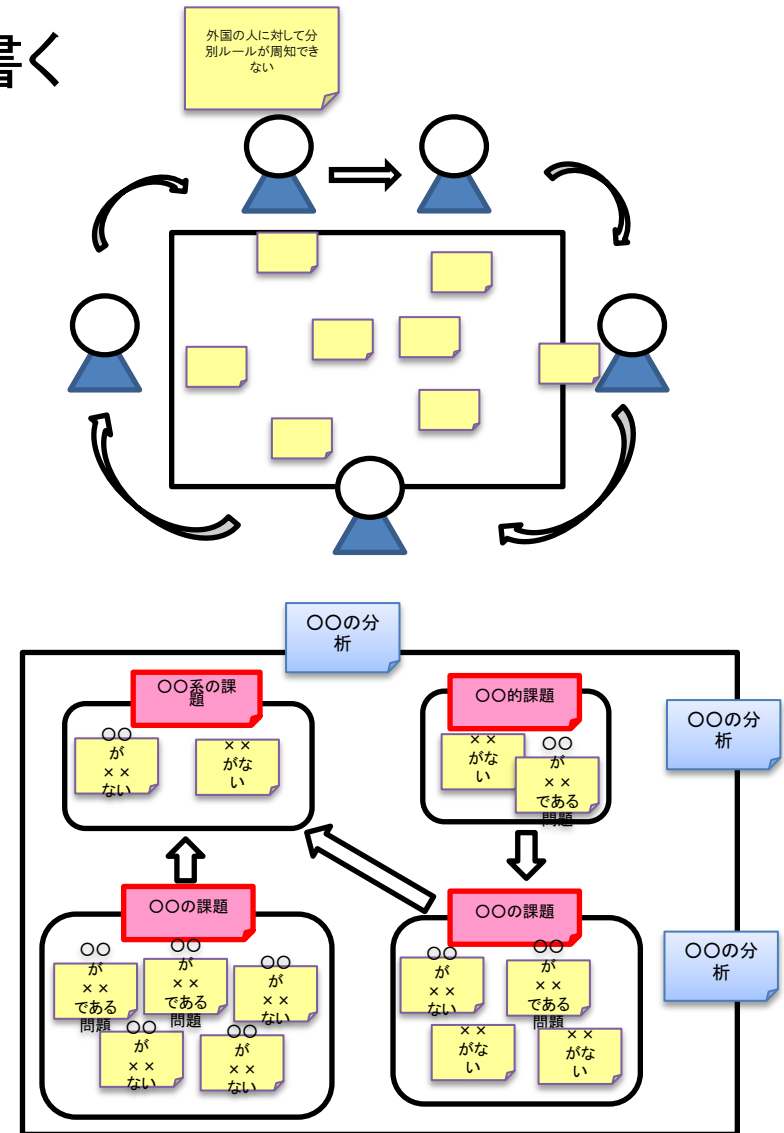
## 2. 2-1 グループワークの全体の流れ

関心のあるごみ関連の課題・問題を書く

一人ずつ順番に、意見を発表しながら、付箋を貼付

意見のまとめり(グループ)をつくり、グループタイトルをつける。課題の関連を議論

自分の専門性・やってきたこと・これから身に着けたいこと、を関連する課題の近くに張り付け





## 2. 2-2 グループワークの流れ

### ① 関心のあるごみ関連の課題・問題を付箋に書く



### ② 意見を説明し、付箋を貼付



関心・問題  
意見の出し合い

## 2. 2-3 グループワークの流れ

### ③貼り付け後、意見のまとまりをつくる



グループのまとまりにタイトルを付ける



## 2. 2-3 グループワークの流れ

### ④課題の関連などを議論



### ④専門性を関連があるところに貼付



自分たちの専門性

# 2. 2-3 完成！と議論内容を発表

関心・問題意識  
意見の出し合い

問題のまとめり

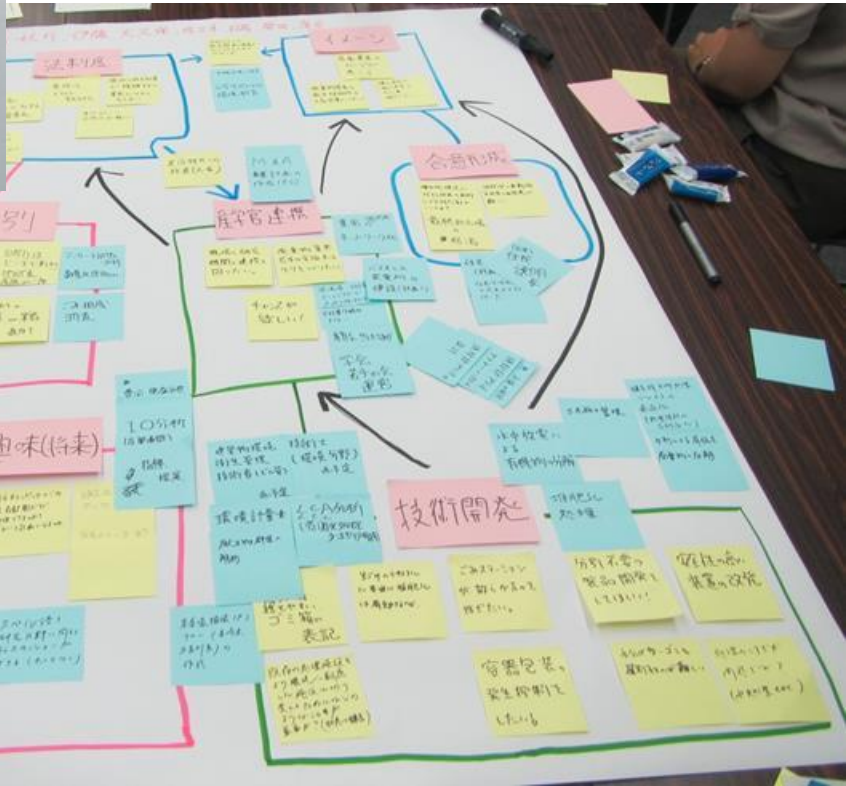
課題の関連

自分たちの専門性

課題との関連付け



# 2. 2-3 完成！と議論内容を発表





3グループ分かれて議論・発表してもらったが……

①専門性(全回答)を類型化

⇒ 今回の参加者属性として整理

②問題(全回答)を類型化

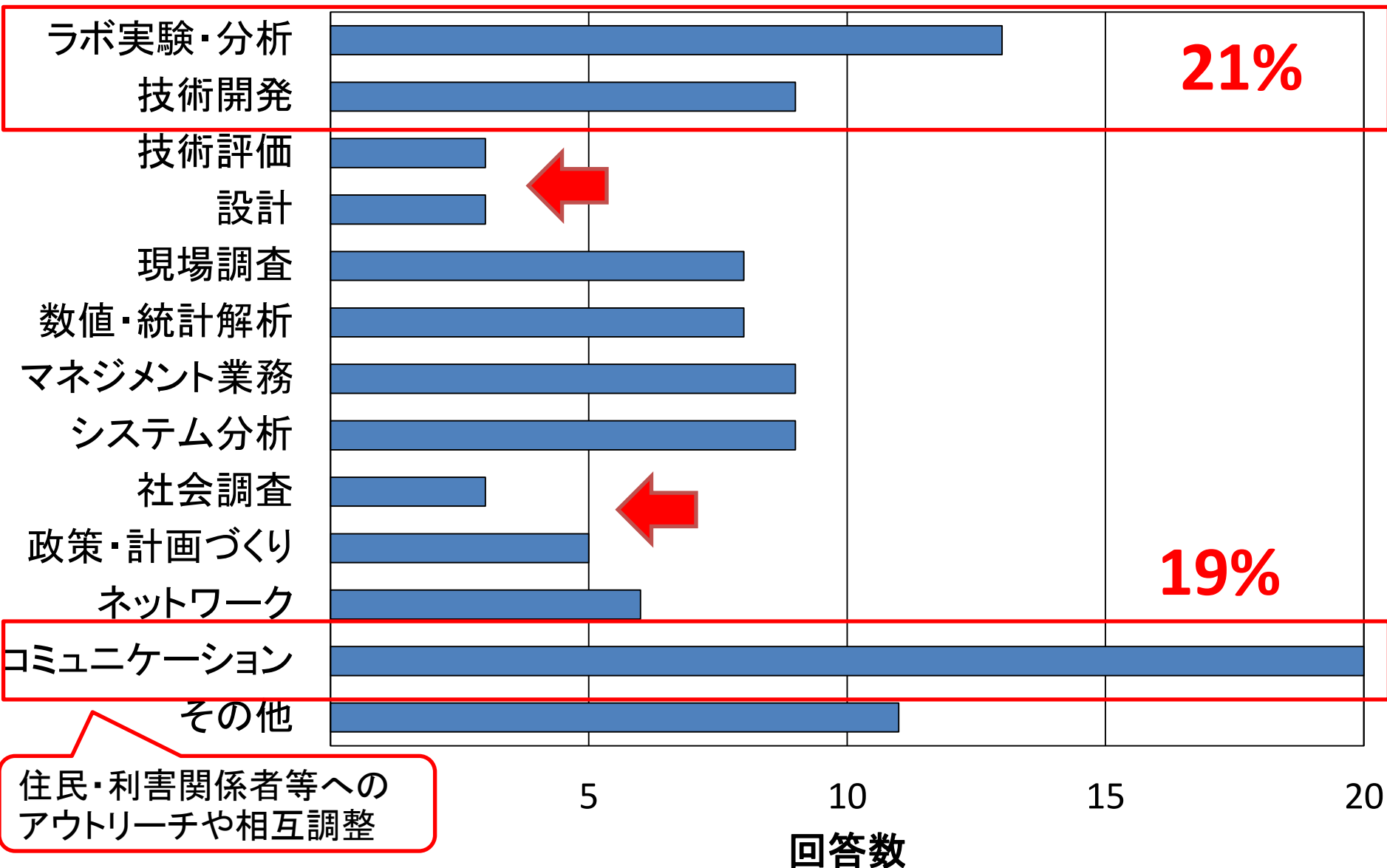
⇒ 若手(今回の参加者)の問題意識として整理

## 2. 4-1 参加者の専門性(経験・ノウハウ): 類型

3グループ(24名)から得られた107個の回答を類型化

- ①**技術開発**: 処理・処分にかかる技術(と材料)の開発
- ②**ラボ実験・分析**: 実験や分析の手法
- ③**現場調査**: ごみ組成調査や現場モニタリング、サンプリング
- ④**技術評価**: 技術適用に係る評価
- ⑤**設計**: 施設や機材の設計
- ⑥**マネジメント業務**: 廃棄物処理の実務に係る管理業務
- ⑦**数値・統計解析**: 統計・数理解析およびその基礎となるデータ処理
- ⑧**システム分析**: LCA、MFA、B/C分析等のシステム分析手法
- ⑨**社会調査**: アンケート調査やインタビュー調査に係るもの
- ⑩**政策・計画づくり**: 政策立案や計画策定の経験等
- ⑪**ネットワーク**: 人的交流に係る実務経験(委員会運営など)
- ⑫**コミュニケーション**: 住民・利害関係者等へのアウトリーチや相互調整
- ⑬**その他**: 専門の基礎となる学問や、保有資格、今後の決意表明等

## 2. 4-2 参加者の専門性の分布



※事務局参加者含む



## 3. 1 関心・問題意識：類型

3グループ(24名)から得られた109個の回答を類型化

### I. 個別課題・関心(個人が抱える課題)

知識習得・経験、社会ニーズの把握、現象の科学的解明

### II. ごみ処理に関する課題

現行法・制度の見直し・策定

廃棄物管理・計画の策定

ごみの発生抑制

リサイクル促進

分別方法の見直し

処理技術の確立

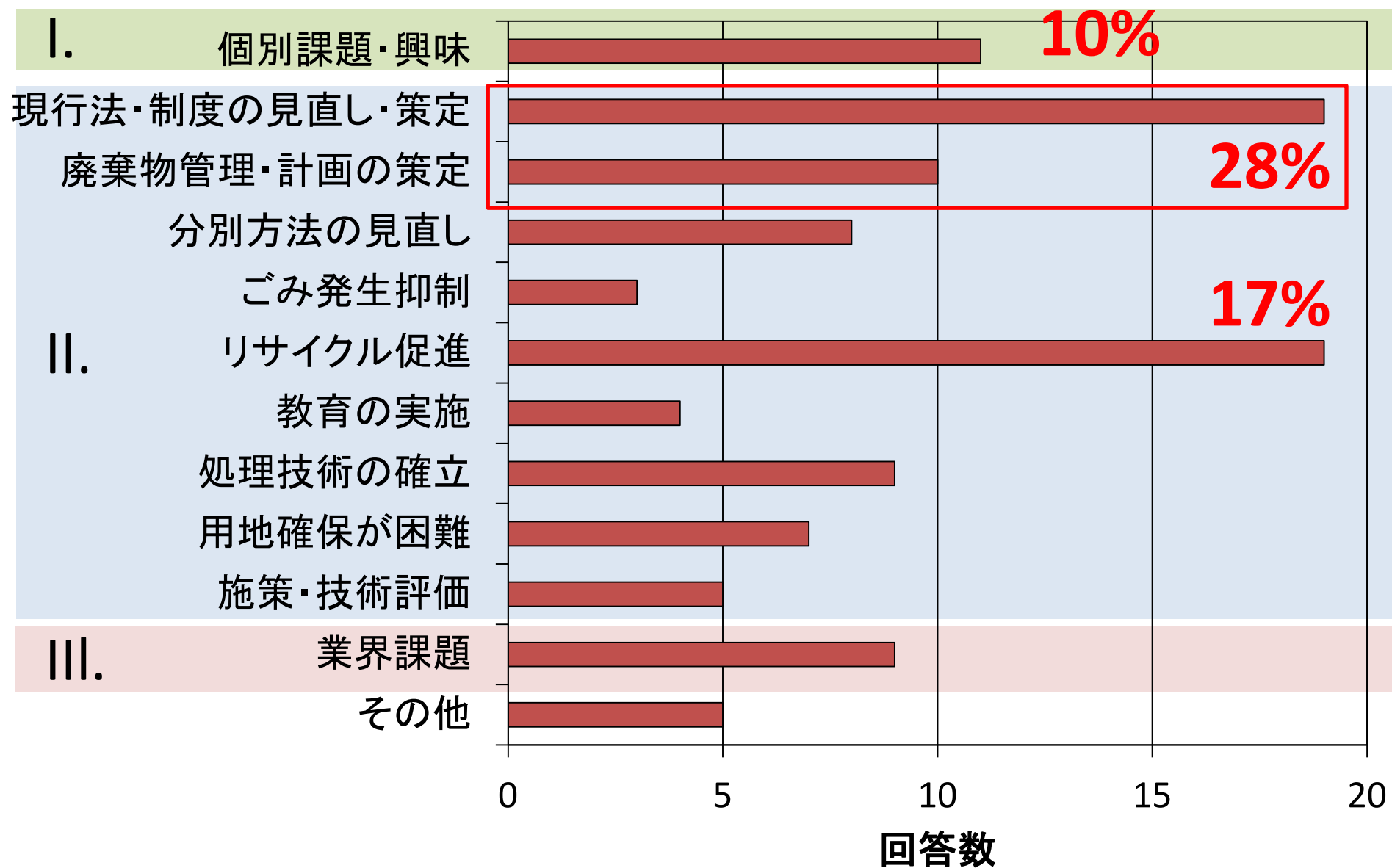
用地確保が困難

施策・技術評価

### III. 業界に関する課題

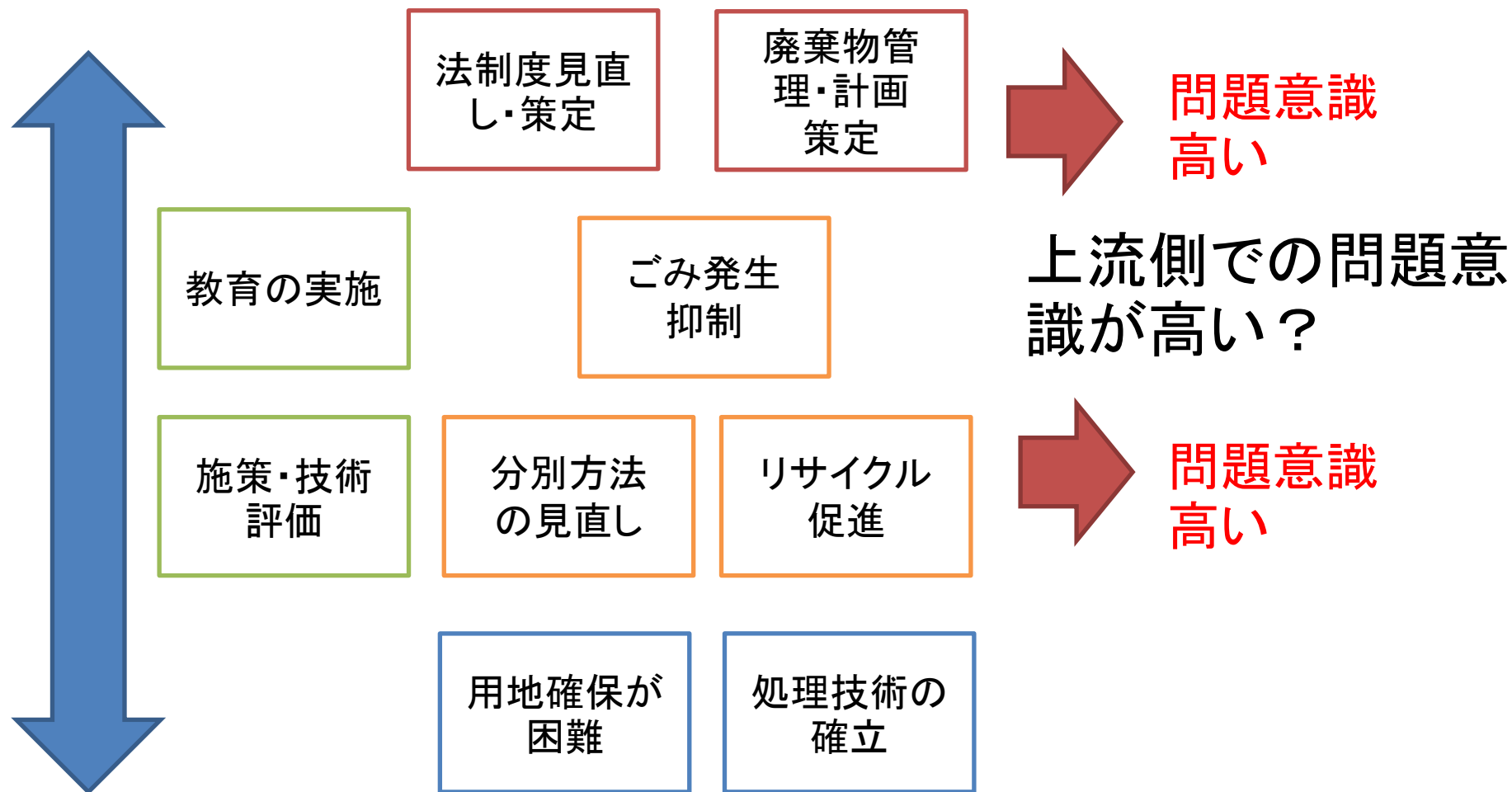
イメージ改善、市場の縮小、連携の必要性

## 3. 2 関心・問題意識：類型分布



# 3.3 ||. ごみ処理に関する課題の構造

## ごみ処理システムの上流



## ごみ処理システムの下流

### 現行法・制度の見直し・策定

#### 廃棄物の定義問題

一 **廃と産廃区分**が必要か？

実務(コストなど)に見合った制度が必要

#### 新たな政策の必要性

**太陽光パネル**や**衣類**リサイクル

**外国人**や**高齢者**に対応

### 廃棄物管理・計画の策定

#### 今後のごみ処理の在り方

**東京オリンピック**の発生ごみ、

**放置住宅・太陽光パネル**

### リサイクルの促進

#### 分別向上

分別徹底、マナー・意識改革

#### 商品開発・分別技術の確立

分別不要の商品開発、ごみ箱表記の改善

#### 再利用先の確保

### 分別方法の見直し

分別の業者間・地域間の差是正、統一  
簡素化

### 3. 5 まとめ(若手の問題意識に関する特徴)

大まかに以下の三つに分けられる

- 各個人が抱える課題
- ごみ処理に関する課題
- 業界に関する課題

ごみ処理に関する課題では、

上流側(法制度の見直しや廃棄物管理・計画の策定、リサイクル促進)に関する意識が高い。

⇒以下の属性が影響した可能性も。

- 収集処理やコンサルティングに係る人が多い
- 技術評価・設計、社会調査、政策・計画づくりを経験している人が少なかった

## 4. 1 グループ発表～若手が何ができるか～

グループの議論でも

「法制度の見直しや廃棄物管理・計画の策定」に関して問題意識強いという結論

技術的な立場から**上流(法制度)側へフィードバック**

制度と技術の**交流、教育**を通して法制度を変える

**産官学の連携**して、法改正や業界課題に取り組む

## 5. 1 アンケート結果\_スコア(平均)表

回答者数:18名

- 1:まったく思わない  
2:あまり思わない  
3:どちらとも言えない  
4:少し思う  
5:かなり思う

セミナーが業務に役立つか	4.4
自分の <b>専門性を再認識</b> する きっかけになった	<b>4.2</b>
他人の若手メンバーのニーズ を知ることができた	4.5
グループワークの設計は適切 であった	4.6
若手同士の <b>ネットワークづくり</b> に有効	<b>4.7</b>
また参加したいか	4.8



## 5. 2 アンケート結果\_感想・改善点

### 参加してよかった点

- いろいろな**立場・視点の意見**を聞けて**刺激**になった
- **議論が盛り**上がって楽しかった
- **課題**がわかりやすい・**再認識**できた

### 改善点

- 会場が**狭い**
- グループワーク(考える・意見を述べる)の**時間を多く**してほしい
- **全体的な時間をコンパクト**にしてほしい
- **環境省・自治体の関係者**に参加してほしい